

都道府県の関係性に着目した地域情報システムの構築

床井 満里菜

近年、各都道府県や市町村にて地域活性化のための活動が行われており、ホームページや観光ウェブサイトによって地域の広報を行っている自治体も少なくない。しかし、地域同士の繋がりが少ないため、他の地域の魅力を知るきっかけ自体がなく、そういった地域情報システムが利用者に利用されず、地域の魅力が宝の持ち腐れになってしまっている。そこで本研究では、地域情報システムで地域同士の繋がりを見える形にすることで、地域内外の魅力に気づき、興味・関心の向上を図ることを目的とする。

本研究では都道府県の関係性に着目した地域情報システム「プリコネ」を構築した。「プリコネ」は、都道府県の中でも魅力を知られていない県の1つである和歌山県を対象に、残りの46都道府県との関係性を示すシステムである。「プリコネ」を構築するため、和歌山県を主題とした地域資料を元に、他県との関係性を調査し、関係性を示すキーワードとその説明・画像をRDFデータモデルで作成した。また、関係性を理解できるよう、対象としている和歌山県をトップページの中心に配置し、対して残りの46都道府県を関係性を示すキーワードの数量によって、多い順に中心に近い場所へ配置し、表現している。このシステムによって利用者の地域に対する興味・関心・気づきに向上がみられるかどうか検証する。

構築した本システムの有効性を検証するため、評価実験を行った。評価実験では、既存の地域情報システム2件と本システムとを比較し、本システムの有効性を図った。比較する地域情報システムは、都道府県別の統計をランキング化し、地域の類似性を図るシステムと、各都道府県の基本情報を各ページにまとめたシステムである。被験者に本システムを含む3つの地域情報システムを利用してもらい、それぞれを5段階評価のアンケートで回答してもらった。

被験者は和歌山県出身の15歳以上に限定し、利用者自身の関わりのある県を中心に他県との関係性をみてもらい、その実験の結果、既存の地域情報システムと対象とした和歌山県の特徴への理解に差は無いことが分かった。しかし、他県への興味・関心を促し、他県との関係性が理解できるという点で本システムが有効であることが判明した。

以上の結果から、本システムによって、利用者に都道府県同士の関係性を理解してもらい、自身の県と他県への興味・関心を促すことができた。関係性を示す際に関係性を持たない独立した魅力の提示や競争相手との共存という点での問題点も見つかり、インターフェースの面も含め、より理解しやすいものへ改善する必要がある。加えて今後、全国都道府県を対象としたシステムを構築した上での再検証が課題となる。

(指導教員 宇陀則彦)